普及活動情勢報告（令和２年２月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

ＪＧＡＰ団体認証取得にむけて内部監査を実施

１月 20 日～27 日にかけてカットネギ生産グループ「土佐園芸生産組合」14 戸の JGAP 内部監査が行われました。

内部監査は、組合内の JGAP 指導員が監査役に、JGAP 指導員資格を持つ普及指導員が補佐になり、作業場の衛生管理や整理整頓について JGAP の管理点毎に作成したチェックリストをもとに行ないました。監査をうけた組合員からは、３月の本審査に向けて、農薬保管庫の整備や在庫管理などをしっかりしていきたいと、認証取得に前向きな声が聞かれました。

農業改良普及課では、今後も関係機関と連携し、認証審査にかかる支援を継続していきます。

香南・香美・南国地区新規就農者歓迎会を開催

歓迎会の様子

1月31日、南国市で管内3市の担い手育成総合支援協議会が新規就農者歓迎会を開催し、新規就農者5人をはじめ、指導農業士や農業委員会、JA、行政等の関係者32人が参加しました。

就農状況報告では「研修受入農家のおかげで就農できた」といった感謝の言葉や「技術は未だ未熟だし、資金や雇用の確保にも困っている」といった課題も聞かれ、指導農業士からは「支援する人は大勢いるし、支援制度もある。１人でやろうと思わず、大いに頼ったらよい」といった励ましの言葉がありました。

農業改良普及課は会議の運営全般を支援しており、今後も経営や技術の指導とともに、関係者とのパイプ役を果たしていきます。

「トマト果実洗浄機」で調製作業を省力化

香南市夜須町は、防根シートを用いたフルーツトマトの産地ですが、最近は労力の確保が課題となっており、労力不足の要因として、収穫後の調製作業が全作業時間の4割を占めることが挙げられます。

農業改良普及課では、洗浄機による玉拭き作業の省力効果等をまとめた「導入手引書」を作成し、研修会等で説明してきました。その結果、今年度新たに4戸が導入し、調製作業時間がおよそ20％短縮されました。生産者からは「手作業にはもう戻れないくらい楽になった」と上々の評価を受けています。

農業改良普及課は、今後も収量・品質の向上や省力化等、生産安定に向けた支援を継続します。

はちきん農業大学（地域講座）の開催　～知的財産権と土づくりについて学ぶ～

２月 14 日、農業改良普及課は、当センターにおいて「農業に関する知的財産権」及び「土づくりと土壌診断」の基礎講座を開催し、女性農業者や農家研修中の研修生など９名が参加しました。

質疑の中で、知的財産権ではデコポンの商標についての質問や地理的表示保護制度（GI）を初めて知ったという声が聞かれました。土づくりと土壌診断では、施肥等の質問に対して、講師から対応策を説明し、土づくりや土壌診断の重要性を学びました。

農業改良普及課は、今後も女性農業者等の意向を把握しながら、農力向上への支援をしていきます。

令和２園芸年度露地・雨除けししとう反省会・栽培講習会

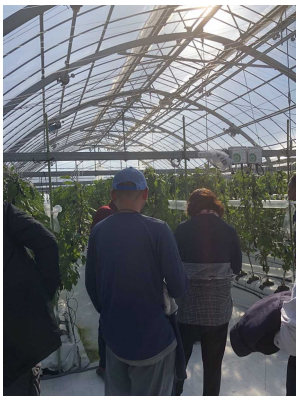
ＪＡ高知県香美地区園芸部ししとう部会は、２月６日に露地・雨除けししとう反省会・栽培講習会を開催し、生産者 19 名が参加しました。

講習会では、JA から前年度や今作の栽培管理、農薬のローテーション利用について講習が行われました。

農業改良普及課からは、かん水についてポイントをしぼり、施設栽培では定植初期のスムーズな活着を促す適正管理、露地栽培では pFメーターを使った管理について情報提供しました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して安定出荷を支援していきます。

先端技術の学習会を開催　～「匠の会」が農業技術センターで学ぶ～



２月６日、任意の生産者活動団体である「匠の会」は、農業技術センターにおいて、生産者８名、関係者３名が参加し先端技術の学習会を開催しました。「匠の会」は地域や品目の垣根を越えて、生産性の向上を目指して活動を行っており、今回はキュウリやナスの養液及びハイワイヤー栽培やピーマンの仕立て方法の技術的特徴と収量性について学びました。

農業改良普及課は、JA と協力して生産者の意向を把握し、農業技術センターでの学習会の支援を行いました。

農業改良普及課は、「匠の会」の生産者の所得向上を目指した活動を継続して支援していきます。